

商品名 本草防己黄耆湯エキス顆粒-M 添付文書情報

一般名	防己黄耆湯エキス顆粒	薬価	9.50
規格	1g	区分	
製造メーカー	本草製薬	販売メーカー	本草製薬
薬効	5. 生薬及び漢方処方に基づく医薬品 52. 漢方製剤 520. 漢方製剤 5200. 漢方製剤		

本草防己黄耆湯エキス顆粒-Mの組成・成分

1日量7. 5g中

ボウイ：5
オウギ：5
ジャクジュツ：3
ショウキョウ：1
タイソウ：3
カンゾウ：1.5
以上のエキス：3.2g

本草防己黄耆湯エキス顆粒-Mの用法・用量

通常成人は1日7.5gを3回に分割し食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

本草防己黄耆湯エキス顆粒-Mの効能・効果

色白で疲れやすく、汗のかきやすい傾向のある次の諸症：肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）、関節痛、むくみ。

本草防己黄耆湯エキス顆粒-Mの副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

1) 間質性肺炎（頻度不明）：咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やか

に胸部X線、速やかに胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、咳嗽、呼吸困難、発熱等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。

- 2) 偽アルドステロン症（頻度不明）：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム貯留・体液貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察（血清カリウム値の測定等）を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
 - 3) ミオパチー（頻度不明）：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・四肢麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
 - 4) 肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）：著しいAST上昇、著しいALT上昇、著しいAl-P上昇、著しいγ-GTP上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがある。
2. その他の副作用：過敏症：（頻度不明）発疹、発赤、そう痒等。

本草防己黃耆湯エキス顆粒-Mの使用上の注意

【重要な基本的注意】

1. 本剤の使用にあたっては、患者の証（体質・症状）を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
2. 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意すること。
3. 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【小児等】

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

【高齢者】

減量するなど注意すること（一般に生理機能が低下している）。

【相互作用】

2. 併用注意：カンゾウ含有製剤（芍薬甘草湯、補中益気湯、抑肝散等）、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤（グリチルリチン酸一アンモニウム・グリシン・L-システイン、グリチルリチン酸一アンモニウム・グリシン・DL-メチオニン配合錠等）〔偽アルドステロン症があらわれやすくなり、また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる（グリチルリチン酸は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる）〕。

【取扱い上の注意】

1. 本剤の品質を保つため、できるだけ湿気を避け、直射日光の当たらない涼しい所に保管すること。
2. 開封後は特に湿気を避け、取扱いに注意すること。
3. 本剤は生薬を原料としているので、色調等が異なることがある。

【保管上の注意】

室温保存。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.